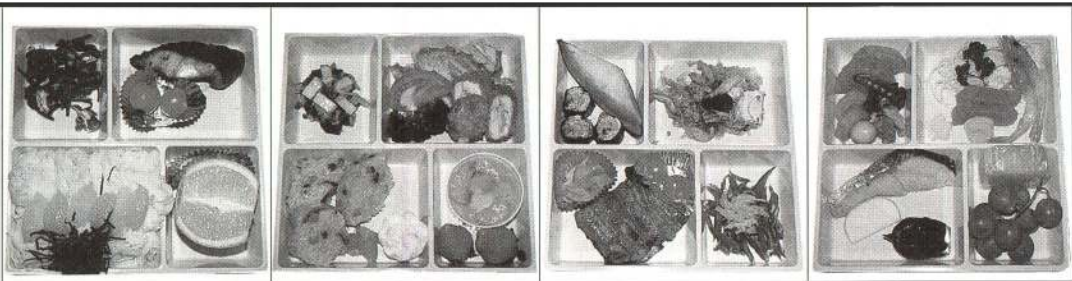


季節の食材  
栄養満点  
福祉弁当



が回収と全員がボランティアとして協力している家族もいて、福祉弁当が家族のコミュニケーションに役立つているとのことでした。また、ある中学生は勉強やクラブ活動で大変忙しいときでも弁当を回収し、小さいながらもボランティア活動に参加しているそうです。お弁当の一つ一つには矢立小の児童が書いた利用者への励ましの絵手紙が添えられているため、利用者には大変喜ばれているとのこと。栄養士さんの話では育成園の献立に特別に一品多く盛り付けられているので、利用者から大変喜ばれているとのこと。このように、食事サービスには地区の皆さんが一体となつて取り組んでいるそうです。

花岡地区は矢立地区と同じく平成七年七月から実施し、回数は月四回、木曜日の夕食で、利用者は二十二人です。活動拠点は神山荘の調理場で、盛り付けのボランティアは「はなふの会」三十八人、配食・回収と運転ボランティアは民生委員、近くの商店、地域のかた、東北電力、消防署、正札竹村の協力をいただいています。利用料金は矢

花岡地区の  
食事サービス



立地区と同じく毎月末日に民生委員が一カ月分をまとめて集金するそうです。

福祉弁当  
楽しみにしています

私は花岡地区の配食ボランティアの車に乗せていただき、利用者の家をまわってみました。ある家庭では、いくら呼んでも応答がなく、入り口には鍵がかけてからからはテレビの音が聞こえてきました。最悪の事態が頭に浮かびましたが「テレビに夢中になって、ごめんなさい」とのことでした。安心しました。また、お年寄り世帯の利用者に福祉弁当のことをたずねると「大変ありがたく思っています。おいしくて一気に食べてしまいます。」



「す」とのことでした。それから一人暮らしの女性は「福祉弁当の日は夕食の心配をすることもなく、ゆつくりと過ごすことができます。また、ボランティアの方々と話ができるのが何よりの楽しみです」と笑顔で話してくれました。帰りに配食ボランティアのかたに配食が重荷になつていませんかとたずねると「家でテレビばかり見ていると体に変になりそう。気分転換にもなるし、歩くのは健康にいいんですよ」とのことでした。

おしまいに

市内の三地区をリポートして感じたのは、どの地区のお弁当も彩りが鮮やかで、豪華で利用者も楽しみながら味わって食べているということです。

私も六年間、福祉弁当の盛り付けボランティアとして参加しています。これから何年協力できるかわかりませんが、自分の健康に気をつけて、皆さんの協力も得ながら、楽しく元気にがんばっていききたいと思えます。なお、リポートに協力いただいた皆様に感謝申し上げます。